

津波堆積土を活用して沈下した岸壁の嵩上げ工事を実施
～仙台港区中野地区岸壁（水深10m）災害復旧工事～

塩釜港湾・空港整備事務所では、仙台港区中野地区岸壁（水深10m）災害復旧工事において、東日本大震災の津波により陸上に打ち上げられ、堆積した軟弱土を活用した試験施工を行います。

工事に活用するのは、石巻港周辺に集積された津波堆積土中の瓦礫分を取り除いた土に、鉄鋼スラグ製品（製鉄副産物であるスラグを加工したもの）を混合し、工事用土砂としての強度と成分を確認した改良土です。

○ 改良土活用の経緯・目的

- ・改良土は新日本製鐵（株）が平成23年9月に、仙台市内で津波堆積土の改良実験を行った際に製造した140t（80m³）で、同社から港湾工事での活用の要請がありました。
- ・改良土は、工事用土砂として品質・強度等、問題が無かったことから、震災で発生した津波堆積土の早期処理に貢献出来るものと考え、試験的に活用するものです。

○ 工事の公開・説明

- ・平成24年1月19日（木）午前10時30分に仙台港区内の工事現場（別紙参照）において工事の状況を公開のうえ説明致します。
- ・取材希望の方はE-mail又はFAX（別添様式）により、所属、氏名、連絡先を記載のうえ平成24年1月18日（水）午後5時までに申し込み下さい。

【発表記者会：宮城県政記者会、東北電力記者会、東北専門記者会】

【申し込み・問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所
ホームページ；<http://www.pa.thr.mlit.go.jp/shiogama/>
E-mail；info-s82ah@pa.thr.mlit.go.jp
企画調整課 渡部、工藤
TEL 022（362）9512
FAX 022（361）3255

【取材場所案内】



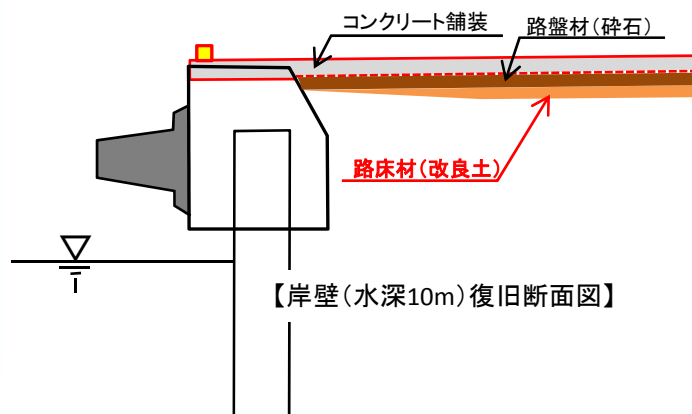
【中野地区岸壁(水深10m)災害復旧工事概要】

〔概要〕

- 中野地区岸壁(2~4号)(水深10m)延長555mにおいて、損傷を受けた上部コンクリート、舗装コンクリートを撤去のうえ、沈下したエプロンを所定の高さまで嵩上げ復旧する。
- 試験工事では、この内2号岸壁の一部区間の路床材に改良土140t(約80m³)を活用する。

〔工期〕

- 平成23年 8月24日～平成24年 3月 9日

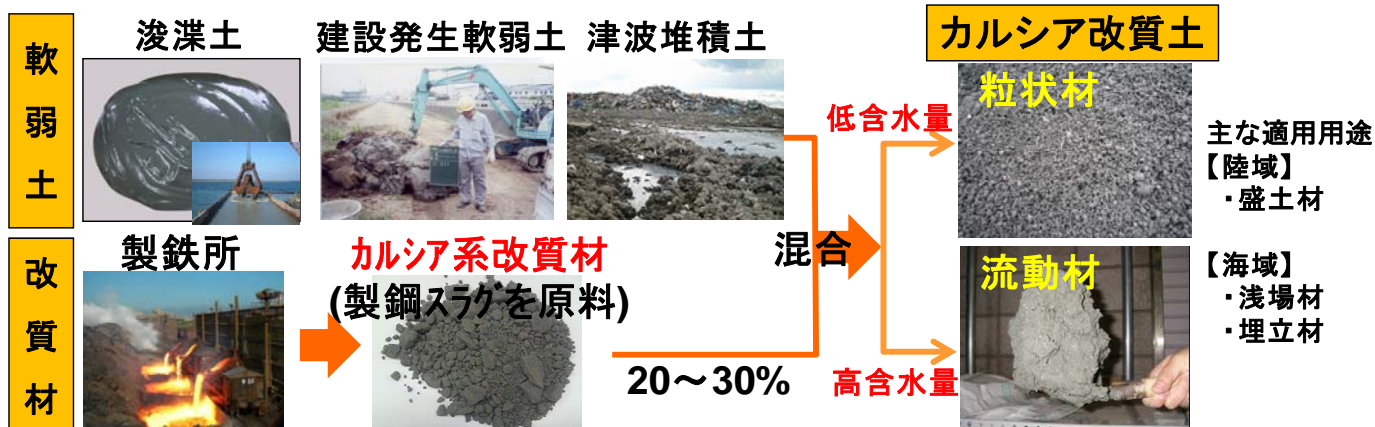


【岸壁(水深10m)復旧断面図】

以下に改良土(カルシア系改質土)の特徴を紹介します。

カルシア系改質材による軟弱土改質技術の特徴

出典:新日本製鐵(株)作成資料



【特徴】 泥土のシカ分とカルシア系改質材からのカルシウム分が水和固化してカルシウムシケート系水和物(C-S-H)やカルシウムアルミネート(AFm)が形成されて固化する。

◎カルシア系改質材に関する問合せ先
 新日本製鐵(株) スラグ・セメント事業推進部 中川、柴崎 TEL:080-5886-7425 FAX:03-6867-3586
 新日本製鐵(株) 君津製鐵所 スラグ営業Gr 横尾 TEL:070-5571-2032 FAX:0439-52-0723
 ◎詳しくはホームページで公開しています URL: <http://www.nsc.co.jp/>

FAX 022-361-3255

東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所 企画調整課行き

件名 ; 津波堆積土を活用した岸壁嵩上げ工事説明会

日時 ; 平成24年1月19日(木)午前10時30分～

場所 ; 仙台塩釜港仙台港区 中野2号岸壁工事現場

■1月18日(水)午後5時までに、ご連絡下さい。

所属	氏名	連絡先(電話番号)	E-mail ※ or FAX番号

※取材に関する留意事項の送付のため、お知らせ願います

【申し込み・問い合わせ先】

国土交通省 東北地方整備局 塩釜港湾・空港整備事務所
企画調整課 渡部、工藤
TEL 022(362)9512
FAX 022(361)3255

ホームページ ; <http://www.pa.thr.mlit.go.jp/shiogama/>
E-mail ; info-s82ah@pa.thr.mlit.go.jp